

平成29年度 学校だより



平成29年12月4日(月)
御前崎市立第一小学校

学校教育目標

花いっぱい 自分 友だち 御一小

No.8

E-mail:

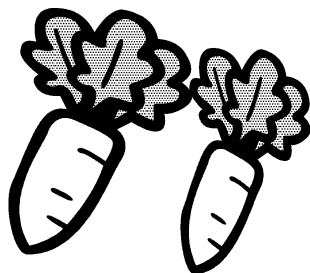
onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp

比べっこしないで

夕飯の惣菜を買いに行き、店頭で並んでいる大根を見た時に、思わずたくさんの大根の中から大きさや形を「比べっこ」して1本の大根を選ぶことはよくあります。幸いにして、大根には感情がありませんので、不満やストレスを与えることはありません。

しかし、子育てに「比べっこ」を使うとどうなるのでしょうか。親になると、少しでもできる子、いい子に育てようと頑張ります。これは決して悪いことではありません。でも、「うちの子はどうして…なんだ。」と思う時、知らず知らずのうちに頭の中で「比べっこ」をしてしまっています。子どもを伸ばそうと一生懸命になって、たくさん塾・習い事をさせたり、いい子に育てようとするあまりに小言が多くなったりします。これが行き過ぎると自主性を奪い、「ぼくはお母さんの見栄のためにいるんじゃない」と反発したり、話を聞かない子になったりします。さらには、ストレスでチック症状や脱毛、爪かみができるようになります。大事なことは、子どもが本当に好きでやっていることかどうかの気持ちを確かめることです。

今はいろいろな情報が簡単に手に入る時代です。氾濫する刺激の強い情報に振り回されないようにしなければなりません。例えば、ハウツー本を読みすぎ、それを信じ込んで、子どものしつけを本の通りにしようと押しつけてはいませんか。子ども一人一人には、それぞれの特性があり、本の通りにならないのは当たり前です。また、自分の子どもとよその子を「比べっこ」をして、一人であれこれ心配しすぎることも、子どもにストレスを感じさせてしまいます。わが子の育つ力を信じ、わが子の小さな成長に気づける親でありたいです。さらに、兄弟の「比べっこ」は「百害あって一利もなし」です。「お兄ちゃんのように…しなさい」「お姉ちゃんみたいに…できなの」という言葉には「比べっこ」の心があります。また、「弟のように」「妹みたいに」の逆も同じです。お兄ちゃん(弟)・お姉ちゃん(妹)を手本に奮起させたいという親の気持ちは分かります。しかし、比べられた子どもは、奮起するどころか、今頑張っている自分を認めてもらえないという気持ちが大きくなり、「どうせぼく(私)なんか…」という気持ちを大きくさせてしまいます。いくら兄弟であっても、一人ひとりみんな違う特性をもった人間です。一人ひとりのもつ特性(よさ)を一番近いところにいる親がを見つけ認めてあげることができる子やいい子を育てるのだと思います。(文責：竹原一人)



よく悩む子



じっくり考える子



泣き虫



感受性豊かな子